

二輪車を
取り巻く
環境

 Good Highway Manners

バイクの楽しさ広がる 高速道路も二人乗りOK!

2005年4月1日から、バイクは二人乗りでも高速道路を走ることができるようになりました。より安全で、より快適な二人乗りツーリングをするには、パッセンジャーへの思いやりと同じくらい周囲のクルマへの思いやりが大切です。ルールとマナーをしっかり守って、ライダーもドライバーも、お互い相手に優しい運転を！
クルマもバイクも思いやり2倍。



社団
法人

日本自動車工業会

広がるツーリングの楽しさ

二人一緒に、より遠くへ、 より快適に！

『道路交通法』が改正され、2005年4月1日から高速道路*の二人乗りができるようになりました。高速道路を使った二人乗りの旅は、欧米ではバイクのいちばん人気のレジャーです。これからは日本のライダーも、気の合う相手と二人で、より遠くへ、より快適に、ツーリングを楽しめます！

*高速自動車国道および自動車専用道路（標識による二人乗り禁止区間を除く）。



カップルで行く
旅の楽しみ

夫婦や恋人同士で ロングツーリング

夫婦や恋人同士でバイクに乗れば、思いやりとふれあいのある旅になるでしょう。観光地や温泉地を訪ねるのにも、新しい旅のスタイルが味わえます。



ツーリング仲間の 輪に加わろう！

仲間と大勢で行くツーリング。これまで高速道路を使えなくて、別行動を強いられていたカップルライダーも、みんなと一緒に旅が可能です。ツーリングやミーティングなど、バイクイベントの楽しみが広がります。



レース観戦にも 二人で行こう！

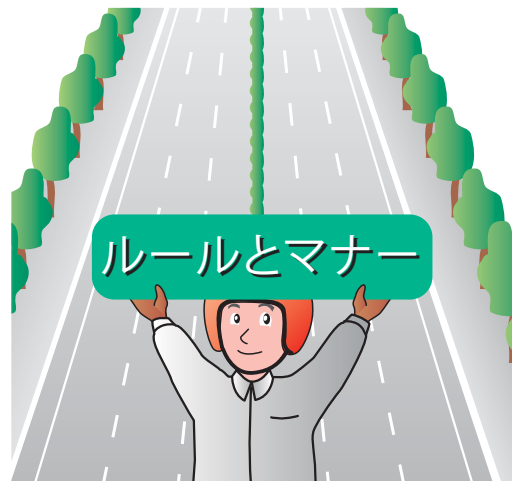
遠い地方のサーキットで開かれるバイクレース観戦も、これからはカップルで高速道路を快適にアクセス。欧州では観戦ライダーの7割が二人乗りでサーキットにやってきます。


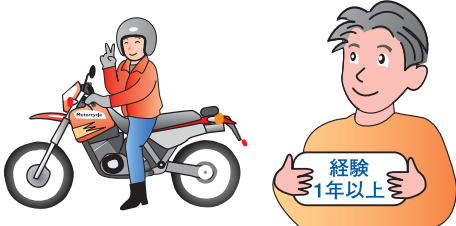
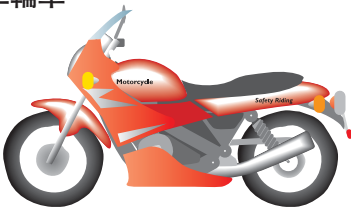
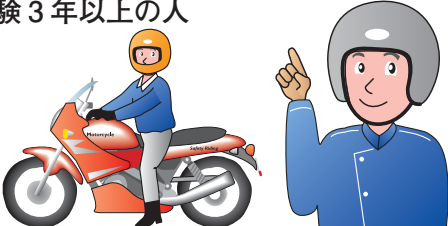


二人乗りできる条件

ルールとマナーは しっかり守る

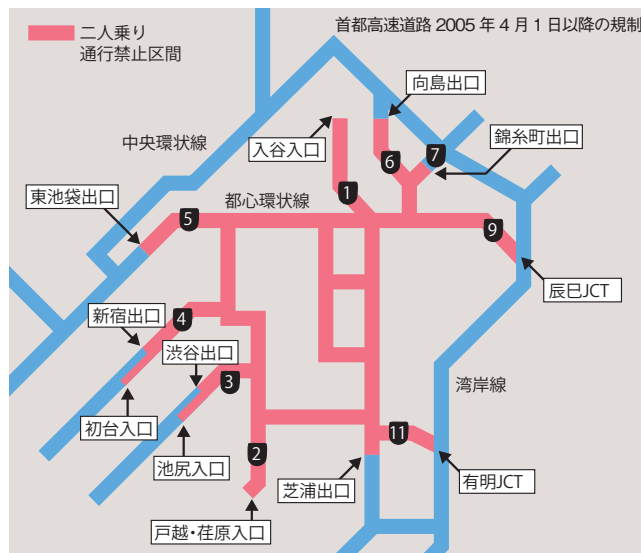
二輪免許を取得すれば、誰でも二人乗りができるわけではありません。また、二人乗りでは通行できない道路区間もあります。二人乗りに関する条件や交通規制をしっかり守り、一人で乗るとき以上に周囲に気をつけて、マナーのよい運転を心がけましょう。



	二人乗りのできるバイク	二人乗り運転のできる人
一般道	自動二輪車  排気量 50cc 超	自動二輪車(排気量 50cc 超)の経験 1 年以上の人 
高速道路	自動二輪車  排気量 125cc 超	年齢 20 歳以上かつ自動二輪車(排気量 50cc 超)の経験 3 年以上の人 

二人乗りでは通行できない区間

標識により、二人乗りでの通行を禁止する規制が行われる場合があります。2005 年 4 月以降も、首都高速道路の一部区間は二人乗りのバイクは通行することができません。十分に注意してください。



より安全、より安心な二人乗りテクニック

二人乗りの運転特性

バイクはバランスをとりながら乗る乗り物です。二人乗りをすると重量が重くなり、重心も変化するため、一人乗りのときとは違った運転特性になることを理解しておきましょう。



二人乗りをすると、重量が重くなるぶん加速が鈍くなり、また、一人の時と同じブレーキをすると制動距離が長くなる。



パッセンジャーは、加速時にライダーを後ろに引っ張るようになり、減速時にはライダーを前に押すようになる。カーブではライダーが車体を急に傾けると、パッセンジャーはびっくりして体を起こそうとするなど、予期せぬ動きでバランスをくずすことがある。

ポイント 1

パッセンジャーも必ず安全な服装で

ライダーは、同乗する人にも安全な服装をしてもらうようにします。とくに高速道路を走るときには、革製のウエアやプロテクター内蔵のツーリング用ウエアを着用するなど、より安全に気を配ることが大切です。



ヘルメットのシールドやゴーグルで、目も防護する。



規格にあったヘルメットを選び、あごひもをしっかり締めするなど、正しいかぶり方をする。



長そで長ズボンを着用し、肌を露出しない。まわりのドライバーからよく目立つ色の服装がベター。



手にはグローブを必ず着用し、かかとがあり、くるぶしまで隠れるブーツやシューズを履く。

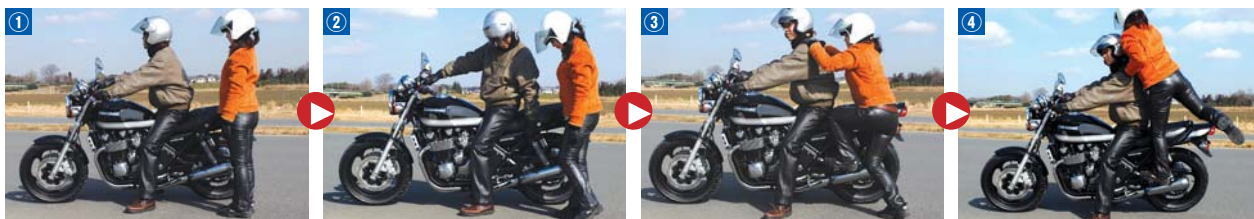
ポイント 2

乗降時に十分なコミュニケーションをとる

二人乗りするときには、安全で快適な乗り方ができるようにパッセンジャーをエスコートしましょう。とくに同乗経験の少ない人を乗せるときには、ライダーがていねいに乗り降りの仕方を説明することが必要です。

乗車時

- ①ライダーはフロントブレーキをかけ、両足を地面に着ける。転倒を防ぐためサイドスタンドを出しておく。
- ②ライダーはパッセンジャーにステップの位置を示し、アイコンタクトをするなど合図をとって左側から乗車させる。
- ③④勢いをつけずに、なるべく小さい動作でまたがる。



降車時

乗車時と同じくライダーはフロントブレーキをかけ、両足を地面に着ける。パッセンジャーは、ライダーの合図をうけてから、バイクの左側に降りるように指示する。

注意 !!

パッセンジャーは、必ずライダーの指示により乗降すること。不意に乗ったり降りたりするとライダーが支えきれずにバランスをくずす恐れがある。

ポイント 3

正しい乗車姿勢を心がける

パッセンジャーには、前方がよく見える乗車ポジションをとらせ、ライダーの動きの妨げにならないよう、両手をしっかりホールドさせ、ニーグリップで姿勢を安定させるよう指示します。

正しい乗車姿勢

足は運転中にステップからはずれないように、土踏まずをしっかりと乗せる。パッセンジャーは両手をライダーの腰に回す。場合によっては、片手をライダーの腰に回し、もう一方の手でグラブバーをしっかりと握る。



とくに制動時にライダーに圧力をかけないように、ニーグリップで体の位置を保持する。



パッセンジャーも前方がよく見え、道路状況、運転状況がよく読めるポジションをとる。



パッセンジャーはライダーと適度な間隔をとって座り、両ひざでライダーの腰をしっかりと挟み込む。パッセンジャーがニーグリップすることでライダーとの一体感が高まる。



悪い乗車姿勢



パッセンジャーが離れすぎると、ライダーはパッセンジャーの動きが察知できず運転しづらい。



パッセンジャーがライダーに密着しすぎると、前方の状況が読みにくく、ライダーの動きも制約してしまう。

ポイント
4

ライダーとパッセンジャーが一体となるのがコツ

ライダーは二人乗りの特性を踏まえて、“急”のつく操作をしないように心がけましょう。パッセンジャーも運転しているつもりでライダーと一体になることが大切です。

二人乗りのときは加速が鈍るため、追い越しに必要な距離が長くなる。
とくに高速道路の本線に合流するときなど注意がいる。



ライダーはカーブに進入するまえに、十分に速度を落とすこと。カーブに進入するときは、パッセンジャーにライダーと同じような姿勢をとらせる。



注意 !!



急発進、急加速をすると、パッセンジャーから後方にひっぱられたり、パッセンジャーが転落する恐れがある。ライダーは常にゆとりをもって緩やかな加速を心がける。



急減速や急制動は、荷重が前輪にかかり、パッセンジャーがライダーを押し出すことになり、運転に支障が出る。減速したり止まったりする場合も、ゆとりのある緩やかな操作を行い、早めの減速を心がける。

ポイント
5

高速道路では早めはやめに休憩する

高速道路を走行するとき、とくに気をつけるべきポイントです。ライダーとパッセンジャーが一体となった運転方法を身につけて、テクニックを過信しない、安全な二人乗りを心がけましょう。

- あらかじめ、燃料、エンジンオイル量、冷却水、タイヤの空気圧、チェーンの緩み、エンジン、ブレーキ、クラッチ、灯火類、バッテリー、各部締めつけなど、点検を十分に。
- 高速道路では、長時間一定の速度で走るため、速度感覚がマヒしてくる。速度計を確認し、適切な速度を守ること。
- 速度が速くなると、敏捷性がにぶるので、車間距離を十分にとり、先の見通しがきく安全な走行位置をキープする。
- 二人乗りは、横風の影響をうけやすいので、トンネルの出口や、切り通しの横風に注意する。

点検は十分に!

横風にも注意!
しっかりとした
運転を!



無理せず、
早めの休憩を!



- 路面のわだちや道路上の落下物への注意を怠らない。
- 長距離を走行するので、ライダーはもちろん、パッセンジャーが居眠りしないよう注意する。
- 強い風圧を直接からだに受け続けるため、体力の消耗が激しい。パッセンジャーに配慮して、サービスエリアやパーキングエリアで早めはやめの休憩をとる。
- 長距離の移動の際には、行く先の天候に気をつけ、早めに装備の対応をする。
- 走行中に物を落としたりしないよう、荷物はしっかりと積載する。

互いを尊重しあう交通社会

広めよう！ バイクとクルマのいい関係



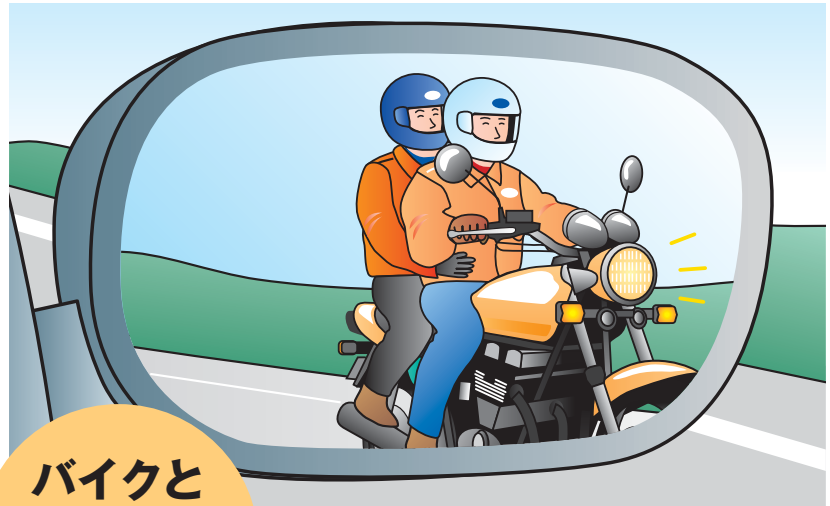
二人乗りの楽しさが広がるぶん、バイクへの社会的理解もますます求められます。クルマのドライバーが感心するようなライダーが増えれば、バイクに道を譲るドライバーもきっと増えるはずです。ライダーのみなさん、高速道路でもドライバーの視線を意識したスマートな二人乗りを心がけてください。後ろに乗る人にも、まわりのクルマにも、思いやりのある運転をお願いします。



ライダーへ

クルマをびっくりさせない走り方を！

クルマからバイクの存在がわかっていると、ドライバーは安心して道を譲るゆとりが生まれます。クルマの死角に入ったり、後ろから急に追い抜くなど、ドライバーをびっくりさせるような運転は厳禁です。ライダーは、つねに自分の存在が認知されるような走り方を心がけましょう。



バイクと
クルマの
相互理解

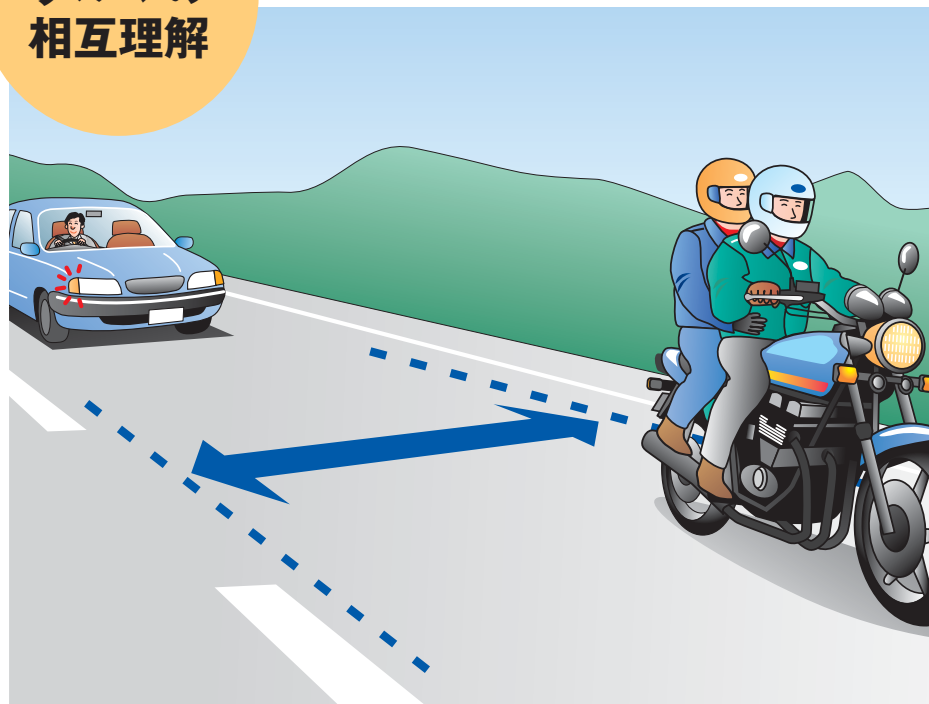
ドライバーへ

バイクとの 車間距離は十分に！

高速で走行しているバイクは、敏捷性が低下しています。また、バイクは小さく見えてしまうため遠くにいるように感じます。車間距離は十分にとることが必要です。

追い抜くときも 余裕をもって

スリムなバイクだからといって、クルマがそのすぐわきを追い抜いたりするのはたいへん危険です。バイクにも、クルマ1台分の車体と同じくらいの幅があるものと考えて、余裕をもった運転を心がけてください。



二輪車を
取り巻く
環境

バイクの楽しさ広がる
高速道路も二人乗りOK!



JAMA

社団法人 **日本自動車工業会**

〒105-0012 東京都港区芝大門 1-1-30 日本自動車会館

URL <http://www.jama.or.jp>

©Mar.2005